

福祉介護 **テクノプラス**

2018
January

1

特集

私の食事

私のレシピ



[TECHNO + View]
提言・巻頭言
介護ロボットについて想うこと

[TECHNO + One]
生活の中の福祉用具⑩②
生きているから応える

より多くの人が使える
モノ・サービス⑨⑦
コレクティブハウジング

[TECHNO + Advocacy]
在宅医療の三種の神器
自立生活20年を迎えて①

[TECHNO + COLUMN]
編集長の独り言
車いす用リフト付き自動車に関して
(ふたたび)

発見！「いいもの・いいこと」見つけてきました⑨

いいもの見つけた！ サービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」Ⅰ

シニアライフデザイン 堀内 裕子

今回は、サービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」をご紹介します。

要介護高齢者が入居する施設や住宅は様々あります、原則65歳以上の要介護3以上で自立した生活が困難な高齢者が入居する特別養護老人ホームや、認知症の症状を持ち要支援2または要介護1以上で生活に困難がある65歳以上の高齢者が入居するグループホームの他、老人保健施設や主に民間企業が運営する有料老人ホームなどがあります。

今回、ご紹介します「サービス付き高齢者向け住宅（以下「サ高住」）は、2011年に創設された新しい事業です。大きな特徴は、原則60歳以上の自立している比較的元気な高齢者を対象とし、賃貸借方式としているところです。その分、サービスの基本は「安否確認サービス」と「生活相談サービス」、バリアフリーとなっています。

8割の高齢者が自立しているといっても老化に伴い体の不安は多くの高齢者が持っている中、サ高住は大きな安心材料となることと思います。

しかしながら、7年で20万戸を超える勢いで登録されている比較的新しい事業ということもあり、運営会社によってはその内容（サービス・建物・介護度）も異なることから、質の問題も取り上げられることが多いのも事実です。

今回ご紹介する銀木犀は、こんな「サ高住」もある！と是非みなさまに知っていただきたく思います。

銀木犀におじゃまし、「あっ！自分もずいぶんカチコチの介護業界人になってしまっている！」と衝撃を感じました。仕事柄、

高齢者施設や住宅を数えれば200以上まわらせていただいている実績が知らず知らずのうちに自由な発想を失っていたな…と。

え？こんな素敵な木（もく）の床材、キズはすぐつくし掃除に大変なのでは？こんな曲線の

同線、車いすには不便なのでは？デザイナー傘立て、水がたまり危ないのでは？こんな陳腐な考えに対し、銀木犀を経営している下河原さんは、「難しいこと言わないの！建物は住んでいる人と共に育てていけばいいのだから」。その通りだと思いました。専門家がステレオタイプの建物やサービスを作り上げていたのだと。住人が住みやすい建物ではなく、いつの間にか職員がサービスを提供しやすい建物になってしまっている。

下河原さんは、「不便なら住んでいる人と一緒に考え、一緒に変えていけばいい。」と。

職員から「建物から理念を感じる」という発言があった通り、強い思いを材料選びから建て方、地域との調和、家具・食器選びに至るまで感じます。「あたたかさを」。

心地よい空間を提供している銀木犀に入居している高齢者が、お気に入りの場所に座り、それぞれの時間を過ごしている姿が印象的でした。

次回はさらに面白い仕掛けをお伝えします。

協力：株式会社シルバーウッド

代表取締役 下河原忠道 「銀木犀」

堀内 裕子

シニアライフデザイン代表 老年学修士
日本応用老年学会 常任理事
桜美林大学老年学総合研究所 連携研究員
東京都健康長寿医療センター研究所
協力研究員

